

2020年(令和2年)10月15日(木曜日)

アイスピグで工水の配水管を洗浄

横浜市 水道局 初施工に職員も注目

横浜市水道局は9月29日、工業用水の配水管路内に堆積した夾雑物を「アイスピグ管内洗浄工法」で洗浄した。今年度と同工法を試行的に採用し、同局では初めての施工となる。現場には局職員約35人が立ち合い、アイスシャーベットの注入から回収までの工程を視察した。

管内に土砂などの夾雑物が堆積しており、放置しておくとならば、閉塞等が生じる恐れがあるため、アイスピグ管内洗浄工法は、イギリスで発明された圧力管路を洗浄する

回復を図る必要があった。アイスピグ管内洗浄工法は、イギリスで発明された圧力管路を洗浄する特許工法で、水と塩を原料とするSIS(特殊アイスシャーベット)を管内に注入して「アイスピグ」を形成し、管内に

付着した汚れを擦り取り、砂石などの夾雑物をシャーベット内に包み込んで管内に排出する。施工を担当したのは、アイスピグ関東地域協会会員の関東ヒノデサービズ販売。洗浄中の断水の影響を最小限に抑えるため、当該管路のうち、ユーザーの分岐管がない区間約190mを洗浄の対象とし、含水率75%のSIS

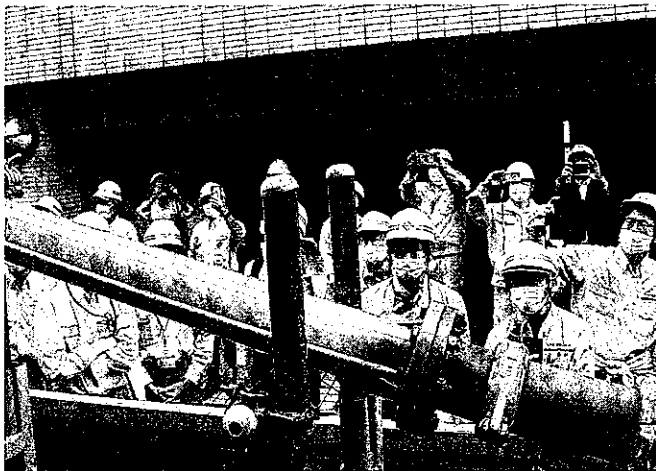
洗浄した管路は、市の西区内に35年前に布設された約300のダクタイル鉄管。経年により、



山田係長



搬入した特殊アイスシャーベットを注入(左奥はデリバリーユニット車)



汚れが運ばれる様子を興味深く見つめる局職員

「管内の堆積物は、更新工事などの際に、洗浄作業やバキューム車を手配して吸引等により除去していたが、手間のかかる作業なので、効果的な洗浄工法を探していた。工水の管路は、伏せ越しや曲がりのあるものも多いので、詰まるリスクがなくスピーディーな施工が可能なアイスピグは有効だと思ふ。今回の施工を検証し、効果が認められれば他の管路についても洗浄を検討したい」と話した。

アイスピグは、イギリスで主に水道管路の洗浄を目的に開発されたが、日本では下水道管路への採用が先行し、当初は水道の案件は少なかった。上下水道をはじめ工業用水、農業用水などの施工実績を年々重ねる中、昨年度は初めて水道の施工件数が下水道を上回り、関東でも大都市をはじめ、デモ施工から採用に至る自治体が増えている。